

意見陳述書

建交労 日本総合サービス宮城分会 分会長 大槻良一

私は国土交通省が発注する車両管理業務を受注する会社の正社員でした。車両管理業務というのは、本来国交省職員が自ら運転して人員輸送や災害復旧など日常の業務の一環として行われていたものが、時の構造改革により民間委託され、業者が引き継いだ業務です。しかしながら、私達は民間人でありながら、外から見れば国交省の組織の中の一員とみなされています。災害があれば、いち早くスタンバイし、職員を現地に送り届けます。長雨の時には災害対応を予測して晩酌を控えて早めに寝るとか、地震があれば震度を確認して出勤に備えます。一例としてあげると春先のチリ地震の時には、津波の警戒で避難勧告の出された河口部への巡回、宮城岩手内陸地震の時には余震の続く山の中で車で寝泊りし、職員の業務を補佐しました。私達の仕事は、職員への業務遂行の手助けであり、国民の安全安心を守る防災官庁から委託される重要な仕事の一つなんだ、堂々と胸を張って言える仕事だと思い頑張っていました。ところが、ここ数年来は採算を度外視するような一般競争入札が横行し、予想価格の4割減、この春には5割減、具体的には予想価格に対して48%での落札が認められる事態となりました。安ければ良いんだという風潮は公正取引委員会からダンピングを指摘されようと国の予算縮減の大儀名分の下では歯止めが利きませんでした。去年、低入札競争を勝ち抜けたわが社は落札価格から給与を算出するんだ。それでも最低賃金より高く算出していると、一方的に労働条件の変更を押し付けてきました。会社として雇用を守る為に低入札もやむなし。勝ち抜く戦術としてこれしかない。と。結果、提示されたのは、基本給の大幅ダウン、諸手当での廃止、ボーナスは夏冬合わせて10万。月当たりで7~8万の減収で手取り15万。年収は200万を割り込みました。組合としても、おいそれと黙って見過ごせる訳がありません。つい先日までは支払い出来た、家のローンや車のローン、公共料金、学校給食費が払えない。同じ仕事をしていて国交省からも確かな労働力を求められている。重責を任される身なのに実は台所は火の車。明日を生きる為に何とかしないと。と、会社との交渉、労基署や労働委員会への申告、生活保護の申請まで、手を尽くしました。その結果、会社も重い腰を上げ若干の歩み寄りをみせて年末に解決一時金が配られ不本意ながらも一応の和解となり何とか無事に年を越せました。私達は、去年の二の舞はゴメンだと、車両管理業務の専門性や重要性を国会議員や発注元の国交省本省、地方整備局に訴え続けてきました。国の仕事をしているのに貧困を嘆くしかない仲間がゴマンという状況。国が主導してワーキングプアが起きている状況。安ければ良い、最低賃金を上回っていれば良いとする労働の対価としては不釣り合いな低賃金での就労を余儀なくされ生活に不安を抱えたままハンドルを握ること、運転が主な仕事なのに支障が出て文句は言えないよ。と。これだけ口を酸っぱくして訴え続けたから、この春の入札は変わってくれるのでは？と期待しておりました。ところが、フタを開けてみれば先に述べたように予定価格の48%での落札。わが社は落札出来ず、行き場を失った私、仲間達は雇い止めの形で失業し今日に至っております。新しく受注した業者は、ここ数年、不手際、不祥事を度々起こしていて、イメージアップを計

る為なのか私達、経験者を丸抱えしようと思いました。本来、時給 750 円のところを経験者なので 50 円上乘せして時給 800 円。ただし、就労前の研修期間の時給は 662 円です。とのこと。契約期間は 6 ヶ月毎更新で最大 1 年の雇用という条件でした。1 日 8 時間労働で 6400 円。土日祝休みを除いて月に 20 日労働で 128,000 円。そこから保険等が引かれると手取りで 100,000 円を割り込みます。ボーナスはありません。一家の大黒柱が 30 年も前の高卒の給料程度で生きていけません。年収にしたら 120 ~ 130 万円程度でしょうか。バカにするなの! の思いでお断りしました。仮に就労した場合、概ね、適正と思われる 2 年前と比べると月で 13 ~ 14 万、年収にするとボーナスを含めて 170 ~ 180 万の減収になります。業務内容は変わらず、災害は容赦なく発生します。なのに一方的に賃金が削られて、車両管理員としての資質や品格は保て! とは、どういうことでしょうか? 低賃金だから職場を離れた仲間もいます。仕事をしたい、今までの経験を生かして国土交通行政に貢献し続けたい。と労働意欲に満ち溢れているのに、いかんせん、高い労働力を発揮しようにも時給 800 円では釣り合いがとれません。明日が見えない状況で就労するだけの気持ちに余裕はありません。最近、全国的に大雨による大災害が続出しています。幸い、宮城県での大災害は無いようですが、防災上、時間雨量や水位の変動により、注意、警戒、非常と体制を整えて災害対応に国交省は動きます。その時、現場に安全かつ迅速に急行するもしないも私達の腕次第なんだということを知って欲しいと思います。危険と隣り合わせを承知で私達は職員を乗せてハンドルを握る、命を預かっている。同時に自分の命もかけています。最低賃金うんぬんで片付けられるほど、昨日今日、就労した人には代替出来ない命懸けの仕事なのです。一朝一夕で務まる簡単な仕事では無く、'経験が物を言う専門職なんだ'と言いたいです。最低賃金より高いからと、単純に落札金額に応じて算出された時給 800 円は、業種の専門性、労働力を無視しているもので、到底、納得出来るものではありません。企業が最低賃金を楯に安く雇用しようとする姿勢ならば、まずは基本ベースとなる最低賃金を引き上げることで待遇改善を促すことが大事であり、その上で労働に対しての適正な対価を頂けるように最低でも時給計算で 1000 円以上を強く望みます。切実な願いです。仕事内容が変わっていないのだから以前の生活水準に少しでも戻れるようにご検討頂きたいと思います。